

古武道に学ぶ 第2回

二天一流の世界（上）



一川英機

はじめに

大学卒業後4年のブランクの後「ヘラ」（二天一流の木剣）を持つての修行を再開した。師は、父である一川格治二天一流17代師範。朝鍛夕鍊、百鍊自得、と稽古鍛鍊が重なり、古流の底の深さを垣間見ることができた。今は流儀に出会えたご縁に感謝の念で一杯である。

今般、東京都剣道連盟から二天一流についての執筆依頼があったが、宮本武蔵ほど著名でありながら実態の掴めない人物も珍しい。残されている資料は、五輪書、小倉碑文、宮本家譜、宮本家系譜、小倉宮本家譜、二天記、兵法先師伝記、兵法大租武州玄信公伝来、小笠原家記等の他に、関係者の書状、宮本伊織、長岡寄之、長岡監物、宮本武蔵遺蹟彰会編、口伝等がある。時代も戦国末期から豊臣、徳川への政権移動の時と重なり、資料の保管整理も困難を極めたことは想像できる。信頼性の高い記録と言えば「五輪書」、「兵法三十五ヶ条」、「独行道」であろう。今回は、二天一流について「五輪書」、「独行道」、「兵法三十五ヶ条」および17代一川格治師範の「口伝」を資料として紹介するものである。

(1) 二天一流の系譜

二天一流は宮本武蔵を流祖とする。系譜を繙（ひもと）いて見れば、

当流兵法御執心不浅

多年御鍛鍊に付一流奥義御皆伝申上候事

一、二天一流兵法五輪之記載之事項並に口伝

以上

流祖 新免武蔵藤原玄信

村上平内源正雄

村上平内源正勝

村上平内源正之

野田三郎兵衛平種信

野田三郎兵衛平種勝

大塚庄八昭博

大塚又助常清

野々村市作永昌

伊豆野十内

野田三郎八平種久

野田辰三郎種養

加納軍次

指田次郎

古賀徳孝

志岐太一郎

第十四代師範

指田次郎

昭和四十六年六月二十五日

一川格治殿

二天一流の目指すところは「実相円満兵法逝去不絶」に要約される。これは剣の修行の目的は、人を斬ることではなく、その実相は



第112回 全日本剣道演武大会

平成28年5月2日
武徳殿

左・仕太刀 手塚啓一 錬士、右・打太刀 一川英機 達士

円満にある。慈悲愛憐を含んでいと説いている。他流には、それぞれに伝統を伝える極意、秘剣があり、目録、皆伝等段階により伝授金制度があるが、二天一流には皆伝のみである。強いて言えば「五輪書」披見とこれを写し取ることを許すこと。「誠直」という無形の心得のみである。誠直とは心にひけ目なく天真爛漫に、平素習得した全勢力を充分に発揮する「こころ」である。

(2) 二天一流の学び方

- 第一に、よこしまなき事をおもう所
 - 第二に、道の鍛錬をする所
 - 第三に、諸芸にさわる所
 - 第四に、諸職の道を知る事
 - 第五に、物事の損得をわかまゆる事
 - 第六に、諸事目利きを覚ゆる事
 - 第七に、目に見えぬ所をさとって知る事
 - 第八に、わずかなる事にも気をつける事
 - 第九に、役に立たぬ事をせざる事
- 大形かくの如き理を心にかけて兵法の道鍛錬すべき也。

(3) 二天一流の成り立ち

二天一流の要諦は、1640年(寛永17年)、流祖宮本武蔵が熊本藩主細川忠利公に客分として迎えられた折、それ迄の修行の「まじめ」を書き著し呈上した「兵法三十五ヶ条」にある。これが後の「五輪書」となる。二天一流の流名は、武蔵の雅号である二天道楽(道二楽シム)より採ったもので、一説に禅友春山和尚の命名との伝えもある。五輪書「地の巻」の冒頭に「兵法の道二天一流と号し……」と明記してある。ここに初めて二天一流という流名が完成された流儀名として誕生したのである。

(4) 二天一流の木剣と五方の形

二天一流の学習に用いる木剣は大小あり、大は三尺三寸、小は二尺を用いる。材質は白樫、軽く薄く作るのは腕力を増すのが目的ではなく、太刀の機能を会得せしめるためである。形は五本から成り、清楚な姿、無駄のない動き、総ての動作は意義あるように組み立てられている。五方の形は仕太刀が主であり、縦打、右斜打、左斜打があり、上段の構えをとるにあたっては、真つ直ぐ、廻し、低く上げ、の3種がある。五方の形には荒々しき激しさはなく、恰も能の舞の如く静かな動きの中に「頭上満々」「脚下満々」の気迫と「一寸の見切り、五分の見切り」の間合いが表現されている。掛け声も独特のもので「ズウー」「ターン」「ヘッタイ」の3声がある。「ズウー」という発声は地中から若木が天に向かって伸びていく勢いを表し、「ターン」は「絶つ」の意。「ヘッタイ」は「絶対」の意と伝えられている。

二天一流には野田派、山東派、水尾派の3派の流れがあり、我々が継承しているのは野田派である。野田派二天一流17代師範は剣道範士八段一川格治で、格治師範没後は熊本県剣道連盟が流儀を継承し、保存、普及、発展に努めている。

プロフィール

いちかわえいき

昭和14年1月1日 熊本市に生まれる。昭和36年3月熊本商科大学卒。

高校時代より熊本県代表として国民体育大会(剣道) 5回出場、大阪府代表として都道府県対抗剣道大会に優勝。第42回全日本剣道選手権大会に二天一流演武で出場。

現在、北友会師範、杉並区剣道連盟参与、荻窪剣友会代表、二天一流杉並会師範。

昨年、全日本剣道連盟有功賞を受賞。



熊本の武蔵塚公園にある宮本武蔵像